特集
農業水利施設内の「ゴミ」問題　シリーズ⑩

本会役職員が、水土里ネット農業水利施設内のゴミ実態を踏査

６月27日（水）、秋田市内の新城川土地改良区受益地において、本会役職員が同土地改良区が管理する農業水利施設内で、ゴミの実態を踏査するとともに、ゴミ処理作業を手伝った。

現地で、新城川土地改良区の安田理事長が「秋田市の最高気温は29度という暑さにもかかわらず、大勢の皆様方にお越しいただき、心より感謝を申し上げる。６月上旬には新城川地域の住民が参加しての『住民のクリーンアップ活動』を実施しているが、今回のような水土里ネット秋田が中心となった農業水利施設内の『ゴミゼロ』運動への取り組みは初めである。熱中症などにも充分留意して、ケガ・事故等ないように、お互いに気をつけて最後までがんばりましょう」と挨拶。

引き続き、安養寺事務局長から作業内容について説明があり、本会の役職員11名が２班編成で、それぞれのルートで、踏査・作業を開始した。開始まもなく土地改良区が借り上げた２ｔトラック２台が、枯れ枝、刈草、缶、瓶、ペットボトル等でいっぱいとなり、土地改良区が抱える「ゴミ」問題について、その取り組みの必要性をしみじみ痛感した。

作業終了後、本会の水戸常務理事より「暑い中ご苦労さまでした。平成22年４月より、『県民の手で、食の安全・安心』をスローガンに、農業水利施設内の『ゴミゼロ』運動に取り組んでから、今年で３年目になる。新城川地域を始め県内の各地域の実態を知るには、今日のようなゴミ処理作業を体感して土地改良区の苦労を知ることも重要である。これからは、いかにして秋田県産の美味しい『米』を売るかだと思う。今、県では食味ランキング特Aに向かっての施策を展開しているが、私たち水土里ネットのできることは、食の安全・安心のために『きれいな水』を提供することであり、農家の皆さんがその水で作ったお米を、安心して消費者である皆さんに食べていただくことが、秋田県産米への付加価値をつけることである。今日のゴミの状況を見ると、先ず農業者の『意識改革』と『足下の実践』こそが一番重要なことであると思う。今後もこのような農業水利施設内のゴミ処理に係わる『ゴミゼロ運動』の取り組みを積極的に推進し、秋田県産米の特徴として『きれいな水で作った米』をアピールできればと考えている」とお礼の言葉をのべ、全日程を終了した。

地域のゴミ問題について
～美しい田園風景を目指して～

新城川土地改良区事務局長　安養寺　文　隆

本地区は秋田市北部地区（上新城、下新城、飯島、金足、外旭川）と潟上市（旧天王町、旧昭和町）の一部にまたがる、秋田市近郊2,400haの農村地帯であります。地区の主要水源は、秋田地区は新城川、草生津川、馬踏川の３河川からであり、潟上地区は八郎潟から取水供給しております。取水供給するうえでもっとも重要なのがゴミの処理であります。

近年、地域の都市化に伴いゴミの不法投棄が増えるようになり、年々ゴミの処理に関する経費も増加してきている現状であります。刈り取られた草や農業用資材の外、ペットボトル、空き缶、買い物袋などが多く、中にはタイヤ、電化製品、タンスなどの粗大ゴミも投棄されることもあります。そのゴミが原因で農業水利施設が故障したり、取水量が低下したり様々な問題を引き起こしております。

土地改良区としても、職員や施設管理人による巡回の回数を増やしたり、看板の設置や広報等による啓発活動などを行っていますが、なかなか成果が出ておりません。費用をかけて処理するのは簡単でありますが、いかに費用をかけないで未然に防ぎ維持していくかが最大の課題であります。私共もこつこつ活動を続けていきますが、土地改良区だけでなく、土地連、行政、企業など様々な団体からも協力して頂き、啓発活動を強化しゴミの無い綺麗な田園風景を目指して行きたいと思います。

６月13日（水）あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議が開催され、議事の終了後、水土里ネット秋田の、農業水利施設内の「ゴミゼロ」対策に係わる意見交換が行われた。

運営委員の方々の声

■農地・水・環境保全向上活動支援事業でＮＰＯ法人を立ち上げた。農業従事者が少ないので、設立目的である環境美化活動に振り回され「ゴミ」問題まで手が回らない状況であったが、組織的（農地・水）に農業水利施設等の「ゴミ」問題に取り組んだら、意識の改革が行われ啓発効果が見えてきた。台風の襲来等により発生するゴミもあり、風雨の猛威には勝てないが、組織的に動かなければ目標達成は出来ないと考える。

■ゴミをなくするのは簡単である。ゴミを捨てなければよい。刑罰などを掲示した啓発用看板を設置しても効果がなく、子供達に対する環境学習の中で、子供に託し親に「ポイ捨てはダメ」と逆指導することが効果に繋がって行くのではないかと考える。また、何時まで、何処までという問題もあるが、イメージが浮かぶ目標設定が必要と思う。

■都会になればなるほど薄れてくるが、自分達の地域は「自分達で守る」ことが重要である。また、「ゴミ」を拾う人は「ゴミ」を捨てないと思われる。

■自分の親の時代は「ゴミ」を川に捨てる時代であったが、現在は、捨てるゴミの科学物質の問題もあり親の時代とは変わった。このような時代の中では、子供達の声が重要であり、川の生態系の変化を捉え、「何故いなくなったか」、「誰のせいなのか」など、角度を変えた考え方も必要ではないか。また、「水土里の日」を決めて、土地改良区役員が自ら「ゴミ」処理を行うような体制作りをするのも一方法と考える。

各水土里ネットの皆様へお願い！

広報等に「ゴミ捨て防止」コーナーを設置して頂き、刈草・農業用資材ゴミを下流域へ流さない啓発活動をお願いいたします。　【水土里ネット秋田】